



端末サービス コマンド : Cisco ASR 9000 シリーズ ルータ

この章では、物理および仮想端末接続の設定、端末の管理、および仮想端末回線（VTY）プールの設定に使用する Cisco IOS XR コマンドについて説明します。

物理および仮想端末の設定に関する詳細については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Management Configuration Guide*』の「*Implementing Physical and Virtual Terminals on Cisco IOS XR Software*」モジュールを参照してください。

- [absolute-timeout, 3 ページ](#)
- [access-list, 5 ページ](#)
- [autocommand, 7 ページ](#)
- [banner exec, 10 ページ](#)
- [banner incoming, 13 ページ](#)
- [banner login, 16 ページ](#)
- [banner motd, 19 ページ](#)
- [banner prompt-timeout, 22 ページ](#)
- [clear line, 24 ページ](#)
- [clear line vty, 26 ページ](#)
- [cli interactive syntax check, 28 ページ](#)
- [cli whitespace completion, 30 ページ](#)
- [databits, 32 ページ](#)
- [disconnect, 34 ページ](#)
- [disconnect-character, 36 ページ](#)
- [escape-character, 38 ページ](#)

- [exec-timeout, 40 ページ](#)
- [flowcontrol hardware, 42 ページ](#)
- [length, 44 ページ](#)
- [line, 46 ページ](#)
- [parity, 48 ページ](#)
- [resume, 50 ページ](#)
- [send, 52 ページ](#)
- [session-limit, 54 ページ](#)
- [session-timeout, 56 ページ](#)
- [show line, 58 ページ](#)
- [show sessions, 62 ページ](#)
- [show terminal, 64 ページ](#)
- [show users, 66 ページ](#)
- [stopbits, 68 ページ](#)
- [terminal exec, 70 ページ](#)
- [terminal length, 72 ページ](#)
- [terminal width, 74 ページ](#)
- [timestamp disable, 76 ページ](#)
- [transport input, 78 ページ](#)
- [transport output, 80 ページ](#)
- [transport preferred, 82 ページ](#)
- [vty-pool, 84 ページ](#)
- [width \(表示\) , 87 ページ](#)

absolute-timeout

回線切断の絶対的なタイムアウトを設定するには、ラインテンプレート コンフィギュレーション モードで **absolute-timeout** コマンドを使用します。コンフィギュレーション ファイルから **absolute-timeout** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

absolute-timeout *minutes*

no absolute-timeout *minutes*

構文の説明

minutes 分単位の絶対的なタイムアウト時間。範囲は 10 ～ 10000 です。

コマンド デフォルト

minutes : 1440

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

指定した時間が経過したら、その時点で接続が使用されているかどうかに関係なく接続を終了するには、**absolute-timeout** コマンドを使用します。ポートごとに絶対的なタイムアウト値を指定できます。ユーザには、セッションが終了する 20 秒前に通知されます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートのセッション タイムアウト値を 2880 分（2 日）に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# absolute-timeout 2880
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner incoming , (13 ページ)	物理端末接続でのユーザ入力のアイドル待機タイムアウト時間を設定します。
session-timeout , (56 ページ)	仮想端末接続でのユーザ入力のアイドル待機タイムアウト時間を設定します。

access-list

IPv4 または IPv6 アクセス リストを使用して着信および発信接続を制限するには、ライン テンプレート コンフィギュレーション モードで **access-class** コマンドを使用します。 制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

access-class *list-name* {**in**| **out**}

no accessclass *list-name* {**in**| **out**}

構文の説明

<i>list-name</i>	IPv4 または IPv6 アクセス リストの名前。
in	着信接続をフィルタリングします。
out	発信接続をフィルタリングします。

コマンド デフォルト

アクセス クラスは設定されていません。

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

着信または発信接続をアクセスリストで定義されているアドレスに制限するには、**access-class** コマンドを使用します。 アクセスリストを名前で定義するには、**ipv4 access-list** または **ipv6 access-list** コマンドを使用します。



(注) IPv4 および IPv6 の着信および発信接続のアクセスを制限するには、IPv4 のアクセス リストと IPv6 のアクセス リストを同じ名前にする必要があります。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートの発信接続に割り当てるアクセス クラスを指定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# access-class vtyacl out
```

次に、vtyacl という名前の IPv4 アクセス リストを表示する **show ipv4 access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show ipv4 access-lists vtyacl

ipv4 access-list vtyacl
 10 permit ip host 10.32.162.48 any
 20 permit ip host 10.20.49.170 any
 30 permit ip host 10.60.3.5 any
```

次に、vtyacl という名前の IPv6 アクセス リストを表示する **show ipv6 access-lists** コマンドの出力例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show ipv6 access-lists vtyacl

ipv6 access-list vtyacl
 10 permit ipv6 host 2001:db8:2222:: any
 20 permit ipv6 host 2001:db8:0:4::2 any
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv4 access-list	IPv4 アクセス リストを名前で定義します。
ipv6 access-list	IPv6 アクセス リストを名前で定義します。

autocommand

ユーザが VTY ターミナル セッションにログインした後で自動的に 1 つ以上のコマンドを実行するには、ライン デフォルト コンフィギュレーション モードまたはライン テンプレート コンフィギュレーション モードで **autocommand** コマンドを使用します。 コンフィギュレーション ファイルから **autocommand** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

autocommand *command*

no autocommand *command*

構文の説明

<i>command</i>	ユーザが VTY セッションにログインしたときに実行するコマンドまたはコマンドエイリアス。
----------------	---

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ユーザが VTY セッションにログインしたときにコマンドまたはコマンドエイリアスを自動的に実行するには、**autocommand** コマンドを使用します。 複数のコマンドを実行するには、*command* 引数にコマンドエイリアスを使用します。 ユーザがログインすると、エイリアスに含まれるコマンドが順番に実行されます。



(注)

autocommand コマンドは VTY 接続のみでサポートされます。コンソールまたは AUX 回線接続ではサポートされません。ユーザがログインした後でコマンドを自動的に実行するには、このコマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、**autocommand** コマンドを使用して、ユーザがデフォルトの VTY セッションにログインしたときに **show ip interface brief** コマンドを自動的に実行する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# configure terminal
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# autocommand show ip interface brief
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# end

Uncommitted changes found, commit them before exiting(yes/no/cancel)? [cancel]:yes

RP/0/RSP0/CPU0:router# exit

<Your 'TELNET' connection has terminated>
```

次に、ユーザが VTY セッションにログインしたときに **show ip interface brief** コマンドを自動的に実行する例を示します。

```
User Access Verification

Username: lab
Password:

Executing Autocommand 'show ip interface brief'
RP/0/RSP0/CPU0:router# show ip interface brief

Interface                               IP-Address      Status           Protocol
MgmtEth0/RP0/CPU0/0                    172.16.0.0      Up               Up
POS0/0/0/0                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/1                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/2                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/3                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/0                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/1                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/2                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/3                              unassigned      Up               Up
```

次に、**autocommand** コマンドの **no** 形式を使用してこの機能をディセーブルにする例を示します。この例では、**show ip interface brief** コマンドに対する **autocommand** をディセーブルにしています。ユーザがログアウトしてから再びログインしたとき、**autocommand** コマンドは実行されません。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# configure terminal
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# no autocommand ?
```



```

LINE   Appropriate EXEC command

RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# no autocommand show ip interface brief
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# end

Uncommitted changes found, commit them before exiting(yes/no/cancel)? [cancel]:yes

RP/0/RSP0/CPU0:router# exit

<Your 'TELNET' connection has terminated>

User Access Verification

Username: lab
Password:
RP/0/RSP0/CPU0:router#

```

次に、**autocommand** コマンドでコマンドエイリアスを使用して、ユーザがデフォルトのVTYセッションにログインしたときに複数のコマンドを実行する例を示します。この例では、「test」というエイリアスを作成し、**show ip interface brief** コマンドと **show users** コマンドを組み込んでいます。その後、**autocommand** 機能を使用して、ユーザが VTY 端末にログインしたときに「test」エイリアスを実行します。

```

RP/0/RSP0/CPU0:router# configure terminal
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# alias test show ip interface brief; show users
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# autocommand test
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# end

Uncommitted changes found, commit them before exiting(yes/no/cancel)? [cancel]:yes

RP/0/RSP0/CPU0:router# exit

<Your 'TELNET' connection has terminated>

User Access Verification

Username: lab
Password:

Executing Autocommand 'test'
RP/0/RSP0/CPU0:router# test

RP/0/RSP0/CPU0:router# show ip interface brief

Interface                               IP-Address      Status           Protocol
MgmtEth0/RP0/CPU0/0                    172.16.0.0      Up               Up
POS0/0/0/0                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/1                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/2                              unassigned      Up               Up
POS0/0/0/3                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/0                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/1                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/2                              unassigned      Up               Up
POS0/3/0/3                              unassigned      Up               Up

RP/0/RSP0/CPU0:router# show users

Line      User      Service  Conns  Idle      Location
* vty0    lab       telnet   0      00:00:00  172.16.0.0

```

banner exec

EXEC プロセスが作成されたときに表示されるメッセージ (EXEC バナー) を作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **banner exec** コマンドを使用します。EXEC バナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner exec delimiter message delimiter

no banner exec

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタは (c) です。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。メッセージテキストには \$(token) の形式でトークンを含めることができます。トークンは、対応するコンフィギュレーション変数に置き換えられます。トークンについては表 1 : banner exec のトークン、(11 ページ) で説明します。

コマンド デフォルト

EXEC バナーは表示されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

EXEC プロセスが作成されたとき (回線がアクティブになったとき、または VTY に対して着信接続が行われたとき) に表示されるメッセージを指定するには、**banner exec** コマンドを使用します。このコマンドのあとに 1 つまたは複数の空白スペースとデリミタ (c) を入力します。1 行または複数行のテキストを入力した後、デリミタ (c) でメッセージを終了します。

ユーザがルータに接続すると、最初に Message-of-The-Day (MoTD) バナーが表示され、続いてログインバナーとプロンプトが表示されます。ユーザがルータにログインすると、接続のタイプに

応じて EXEC バナーまたは着信バナーが表示されます。リバース Telnet ログインの場合、着信バナーが表示されます。その他の接続の場合、ルータは EXEC バナーを表示します。

`$(token)` という形式のトークンをメッセージ テキスト中で使用して、バナーをカスタマイズできます。トークンには、ルータのホスト名や IP アドレスなど、現在のコンフィギュレーション変数が表示されます。

この表でトークンについて説明します。

表 1 : *banner exec* のトークン

トークン	バナーに表示される情報
<code>\$(hostname)</code>	ルータのホスト名を表示します。
<code>\$(domain)</code>	ルータのドメイン名を表示します。
<code>\$(line)</code>	VTY または TTY（非同期）の回線番号を表示します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、トークンを使用する EXEC バナーを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# banner exec c
Enter TEXT message. End with the character 'c'.
THIS IS AN EXEC BANNER
c
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner incoming , (13 ページ)	ネットワーク上のホストから端末回線への着信接続時に表示されるカスタマイズされたメッセージを定義してイネーブルにします。
banner login , (16 ページ)	ユーザ名とパスワードのログインプロンプトの前に表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。

コマンド	説明
banner motd, (19 ページ)	カスタマイズされた MoTD バナーを定義します。
banner prompt-timeout, (22 ページ)	ログインタイムアウトのときに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。

banner incoming

ネットワーク上のホストから端末回線に着信接続があったときに表示されるバナーを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **banner incoming** コマンドを使用します。着信接続のバナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner incoming delimiter message delimiter

no banner incoming

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタは (c) です。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。メッセージ テキストには \$(トークン) の形式でトークンを含めることができます。トークンは、対応するコンフィギュレーション変数に置き換えられます。トークンについては表 2 : banner incoming のトークン, (14 ページ) で説明します。

コマンド デフォルト

着信バナーは表示されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

banner incoming コマンドの後に 1 つ以上の空白スペースとデリミタ (c) を入力します。1 行または複数行のテキストを入力した後、メッセージの終わりにデリミタ (c) を再び入力します。

着信接続は、ルータのネットワーク側から開始される接続です。着信接続は、リバース Telnet セッションとも呼ばれます。このようなセッションでは、Message-of-The-Day (MoTD) バナーと着信バナーは表示されますが、EXEC バナーは表示されません。

ユーザがルータに接続すると、最初に MoTD バナーが表示され (設定されている場合)、続いてログインバナーとプロンプトが表示されます。ユーザがルータにログインすると、接続のタイプ

に応じて EXEC バナーまたは着信バナーが表示されます。リバース Telnet ログインの場合、着信バナーが表示されます。その他の接続の場合、ルータは EXEC バナーを表示します。

着信バナーの表示を抑制することはできません。着信バナーが表示されないようにするには、**no banner incoming** コマンドで削除する必要があります。

バナーをカスタマイズするには、メッセージテキスト内で \$(トークン) の形式でトークンを使用します。トークンには、ルータのホスト名や IP アドレスなど、現在の変数が表示されます。

この表ではトークンについて説明します。

表 2: **banner incoming** のトークン

トークン	バナーに表示される情報
\$(hostname)	ルータのホスト名を表示します。
\$(domain)	ルータのドメイン名を表示します。
\$(line)	VTY または TTY（非同期）の回線番号を表示します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、着信接続バナーを作成する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# banner incoming c
Enter TEXT message. End with the character 'c'
THIS IS AN INCOMING BANNER.
c
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner exec , (10 ページ)	EXEC プロセスが開始されるたびに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。
banner login , (16 ページ)	ユーザ名とパスワードのログインプロンプトの前に表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。

コマンド	説明
banner motd, (19 ページ)	カスタマイズされた MoTD バナーを定義します。
banner prompt-timeout, (22 ページ)	ログインタイムアウトのときに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。

banner login

ユーザ名とパスワードのログインプロンプトの前に表示されるカスタマイズされたバナーを作成するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **banner login** コマンドを使用します。ログインバナーをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner login delimiter message delimiter

no banner login

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタは (c) です。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。メッセージテキストには \$(トークン) の形式でトークンを含めることができます。トークンは、対応するコンフィギュレーション変数に置き換えられます。トークンについては表 3 : banner login のトークン , (17 ページ) で説明します。

コマンド デフォルト

ログインバナーは表示されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザグループに属している必要があります。ユーザグループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

banner login コマンドの後に 1 つ以上の空白スペースとデリミタ (c) を入力します。続いて 1 行または複数行のテキストを入力し、メッセージの終わりにデリミタ (c) を再び入力します。

ユーザがルータに接続すると、最初に Message-of-The-Day (MoTD) バナーが表示され (設定されている場合)、続いてログインバナーとプロンプトが表示されます。ユーザがルータに正常にログインすると、接続のタイプに応じて EXEC バナーまたは着信バナーが表示されます。リバース Telnet ログインの場合、着信バナーが表示されます。その他の接続の場合、ルータは EXEC バナーを表示します。

バナーをカスタマイズするには、メッセージテキスト内で\$(トークン)の形式でトークンを使用します。トークンには、ルータのホスト名やIPアドレスなど、現在のコンフィギュレーション変数が表示されます。

この表でトークンについて説明します。

表 3: *banner login* のトークン

トークン	バナーに表示される情報
\$(hostname)	ルータのホスト名を表示します。
\$(domain)	ルータのドメイン名を表示します。
\$(line)	VTY または TTY（非同期）の回線番号を表示します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、ログイン バナーを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# banner login c
Enter TEXT message. End with the character 'c'.
THIS IS A LOGIN BANNER
c
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner exec , (10 ページ)	EXEC プロセスが開始されるたびに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。
banner incoming , (13 ページ)	ネットワーク上のホストから端末回線への着信接続時に表示されるカスタマイズされたメッセージを定義してイネーブルにします。
banner motd , (19 ページ)	カスタマイズされた MoTD バナーを定義します。

コマンド	説明
banner prompt-timeout, (22 ページ)	ログインタイムアウトのときに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。

banner motd

Message-of-The-Day (MoTD) バナーを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **banner motd** コマンドを使用します。MoTD バナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner motd *delimiter message delimiter*

no banner motd

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタは (c) です。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。メッセージテキストには \$(トークン) の形式でトークンを含めることができます。トークンは、対応するコンフィギュレーション変数に置き換えられます。

コマンド デフォルト

MoTD バナーは表示されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

このコマンドのあとに 1 つまたは複数の空白スペースとデリミタ (c) を入力します。続いて 1 行または複数行のテキストを入力し、メッセージの終わりにデリミタ (c) を再び入力します。

この MoTD バナーは接続されるすべての端末に対して表示され、すべてのユーザに影響するメッセージ（緊急を要するシステム シャットダウンなど）を送信するのに便利です。回線の MoTD バナーをディセーブルにするには、**no banner motd** コマンドを使用します。

ユーザがルータに接続すると、最初に MoTD バナーが表示され（設定されている場合）、続いてログインバナーとプロンプトが表示されます。ユーザがルータに正常にログインすると、接続の

タイプに応じて EXEC バナーまたは着信バナーが表示されます。 リバース Telnet ログインの場合、着信バナーが表示されます。 その他の接続の場合、ルータは EXEC バナーを表示します。

バナーをカスタマイズするには、メッセージテキスト内で \$(トークン) の形式でトークンを使用します。 トークンには、ルータのホスト名や IP アドレスなど、現在のコンフィギュレーション変数が表示されます。

この表でトークンについて説明します。

表 4: *banner motd* のトークン

トークン	バナーに表示される情報
\$(hostname)	ルータのホスト名を表示します。
\$(domain)	ルータのドメイン名を表示します。
\$(line)	VTY または TTY（非同期）の回線番号を表示します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、トークンを含む MoTD バナーを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# banner motd c
Enter TEXT message. End with the character 'c'.
Notice: all routers in $(domain) will be upgraded beginning April 20
c
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner exec , (10 ページ)	EXEC プロセスが開始されるたびに表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。
banner incoming , (13 ページ)	ネットワーク上のホストから端末回線への着信接続時に表示されるカスタマイズされたメッセージを定義してイネーブルにします。

コマンド	説明
banner login, (16 ページ)	ユーザ名とパスワードのログインプロンプトの前に表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。
banner prompt-timeout, (22 ページ)	ログインタイムアウトのときに表示されるカスタマイズされたバナーを定義します。

banner prompt-timeout

ログイン認証タイムアウトが発生したときに表示されるバナーを作成するには、グローバル コンフィギュレーションモードで **banner prompt-timeout** コマンドを使用します。プロンプト タイムアウト バナーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

banner prompt-timeout *delimiter message delimiter*

no banner prompt-timeout

構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタは (c) です。
<i>message</i>	メッセージのテキストを指定します。メッセージテキストには \$(トークン)の形式でトークンを含めることができます。トークンは、対応するコンフィギュレーション変数に置き換えられます。

コマンド デフォルト

ログイン認証タイムアウトが発生してもバナーは表示されません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

このコマンドのあとに1つまたは複数の空白スペースとデリミタ (c) を入力します。続いて1行または複数行のテキストを入力し、メッセージの終わりにデリミタ (c) を再び入力します。

ユーザ名とパスワードのプロンプトでログイン認証タイムアウトが発生すると、このプロンプト タイムアウト バナーが表示されます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、プロンプト タイムアウト バナーを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# banner prompt-timeout c
Enter TEXT message. End with the character 'c'.
THIS IS A PROMPT TIMEOUT BANNER
c
```

関連コマンド

コマンド	説明
banner exec, (10 ページ)	EXEC プロセスが開始されるたびに表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。
banner incoming, (13 ページ)	ネットワーク上のホストから端末回線への着信接続時に表示されるカスタマイズされたメッセージを定義してイネーブルにします。
banner login, (16 ページ)	ユーザ名とパスワードのログインプロンプトの前に表示されるカスタマイズされたバナーを定義してイネーブルにします。
banner motd, (19 ページ)	カスタマイズされた MoTD バナーを定義します。

clear line

AUX 回線またはコンソール回線をクリアしてアイドル状態にするには、EXEC モードで **clear line** コマンドを使用します。

clear line {aux| console} location *node-id*

構文の説明

aux	AUX 回線をクリアします。
console	コンソール回線をクリアします。
location <i>node-id</i>	クリアする AUX 回線またはコンソール回線が存在するルート プロセッサ (RP) の場所を指定します。 <i>node-id</i> 引数は、ラック/スロット/モジュール の形式で入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	execute

例

次に、コンソール回線をクリアしてアイドル状態にする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# clear line console location 0/RP1/CPU0
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users, (66 ページ)	ネットワーキングデバイスのアクティブ回線に関する情報を表示します。

clear line vty

仮想端末回線（VTY）をクリアしてアイドル状態にするには、EXEC モードで **clear line vty** コマンドを使用します。

clear line vty *line-number*

構文の説明

line-number 0 ～ 99 の範囲の回線番号。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作または値はありません。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

接続元を特定してクリアする回線を判別するには、**show users** コマンドを使用します。回線がクリアされてアイドル状態になると、接続の反対側のユーザは、外部ホストによって接続が閉じられたことの通知を受け取ります。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	execute

例

次に、VTY 3 をアイドル状態にリセットする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# clear line vty 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users , (66 ページ)	ネットワーキングデバイスのアクティブ回線に関する情報を表示します。

cli interactive syntax check

対話形式の構文チェックをイネーブルにするには、該当するラインコンフィギュレーションモードで **cli interactive syntax check** コマンドを使用します。対話形式の構文チェックをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli interactive syntax check

no cli interactive syntax check

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

対話形式の構文チェックはディセーブルになっています。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

ライン デフォルト コンフィギュレーション

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

入力しながらコマンドの構文をチェックするには、**cli interactive syntax check** コマンドを使用します。正しくない構文は入力できません。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read, write

例

次に、対話形式の構文チェックをイネーブルにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# cli interactive syntax check
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli whitespace completion, (30 ページ)	Space キーを押すことによるコマンドの完成をイネーブルにします。

cli whitespace completion

Space キーを押すとコマンドが完成されるようにするには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **cli whitespace completion** コマンドを使用します。Space キーを押すことによるコマンド完成をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cli whitespace completion

no cli whitespace completion

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

Space キーを押すことによるコマンド完成はディセーブルになっています。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

ライン デフォルト コンフィギュレーション

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

単語を完全に入力する前に Space キーを押すとコマンド構文の次の単語が完成されるようにするには、**cli whitespace completion** コマンドを使用します。複数のオプションが有効な場合は、すべてのオプションが表示されて、そこから 1 つを選択できます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例 次に、Space キーを押すことによるコマンド完成をイネーブルにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# cli whitespace completion
```

関連コマンド

コマンド	説明
cli interactive syntax check , (28 ページ)	対話形式の構文チェックをイネーブルにします。

databits

物理端末接続用に文字ごとにデータ ビットを設定するには、回線コンソール コンフィギュレーション モードで **databits** コマンドを使用します。 デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

databits {5| 6| 7| 8}

no databits

構文の説明

5	文字ごとのデータ ビットを 5 に設定します。
6	文字ごとのデータ ビットを 6 に設定します。
7	文字ごとのデータ ビットを 7 に設定します。
8	文字ごとのデータ ビットを 8 に設定します。

コマンド デフォルト

文字ごとに 8 データビットです。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

物理端末接続のデータ ビット属性を設定するには、**databits** コマンドを使用します。 物理端末接続は、コンソール ライン テンプレートまたは AUX ライン テンプレートを使用します。

databits コマンドは、パリティ付きの 7 データ ビットを生成するデバイスからの入力の上位ビットをマスクします。 パリティが生成されている場合は、文字ごとに 7 データ ビットを指定します。 パリティ生成が有効になっていない場合は、文字ごとに 8 データ ビットを指定します。 キーワード **5** および **6** は、古いデバイスとの互換性のために用意されており、通常は使用しません。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、コンソール端末テンプレートの文字ごとのデータ ビットを 7 に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# databits 7
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users , (66 ページ)	ネットワーキングデバイスのアクティブ回線に関する情報を表示します。
stopbits , (68 ページ)	ストップ ビットの数を設定します。

disconnect

ネットワーク接続を切断するには、EXEC モードで **disconnect** コマンドを使用します。

disconnect [*connection-number*| *network-name*]

構文の説明

<i>connection-number</i>	(任意) 切断するアクティブなネットワーク接続の回線の番号。 範囲は 1 ～ 20 です。
<i>network-name</i>	(任意) 切断するアクティブなネットワーク接続の名前。

コマンド モード

EXEC

コマンド デフォルト

引数を指定しないと、既存のネットワーク接続が切断されます。

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

セッションを終了するために回線を切断しないでください。代わりに、セッションを終了する前にホストをログオフし、接続をクリアします。アクティブなセッションをログアウトできない場合は、回線を切断します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例 次に、デバイス（この例では「User1」）から切断してルータに戻る例を示します。

```
User1% disconnect
Connection closed by remote host
RP/0/RSP0/CPU0:router#
```

disconnect-character

セッションを切断するための文字を定義するには、ラインテンプレートコンフィギュレーションモードで **disconnect-character** コマンドを使用します。コンフィギュレーションファイルから **disconnect-character** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

disconnect-character [*number*| *character*]

no disconnect-character

構文の説明

number (任意) 切断文字に相当する ASCII の 10 進数値です。範囲は 0 ～ 255 です。

character (任意) 切断文字。

コマンド デフォルト

切断文字は定義されていません。

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

区切り文字は 0 で表します。ヌルを表すことはできません。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルトの回線テンプレートの切断文字を Esc 文字に設定する例を示します。Esc に相当する ASCII の 10 進値は 27 です。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# disconnect-character 27
```

関連コマンド

コマンド	説明
escape-character , (38 ページ)	エスケープ文字を定義します。

escape-character

セッションをエスケープするための文字を定義するには、ラインテンプレートコンフィギュレーションモードで **escape-character** コマンドを使用します。コンフィギュレーションファイルから **escape-character** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

escape-character {**break**| *number*| *character*| **default**| **none**}

no escape-character

構文の説明

break	エスケープ文字を Break キーに設定します。
<i>number</i>	エスケープ文字に相当する ASCII の 10 進値。 範囲は 0 ～ 255 です。
<i>character</i>	エスケープ文字。
default	デフォルトのエスケープ文字 (^X) を指定します。
none	エスケープ機能をディセーブルにします。

コマンド デフォルト

デフォルトのエスケープ文字は ^X です。

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

デフォルトとは異なるエスケープ文字シーケンスを定義するには、**escape-character** コマンドを使用します。既存の接続を終了して EXEC プロンプトに戻るには、エスケープ文字を使用します。

デフォルトのエスケープキーシーケンスはCtrl+Shift+6、X (^X) です。**default** キーワードを指定した **escape-character** コマンドは、エスケープ文字を Break キー（Break キーのデフォルトの設定は Ctrl+C）に設定します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルトラインテンプレートのエスケープ文字をCtrl+Pに設定する例を示します。これに相当する ASCII の 10 進値は 16 です。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# escape-character 16
```

関連コマンド

コマンド	説明
disconnect-character , (36 ページ)	切断文字を定義します。

exec-timeout

EXEC コマンド インタープリタがユーザ入力を検出するまで待つ時間を設定するには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **exec-timeout** コマンドを使用します。実行コンフィギュレーションから **exec-timeout** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

exec-timeout *minutes seconds*

no exec-timeout *minutes seconds*

構文の説明

<i>minutes</i>	分単位で表した待機時間です。範囲は 0 ～ 35791 です。
<i>seconds</i>	秒単位で表した待機時間です。範囲は 0 ～ 2147483 です。

コマンド デフォルト

minutes : 10
seconds : 0

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション
回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

指定した時間内に入力が検出されない場合、EXEC ファシリティは現在の接続を再開します。接続が存在しない場合、EXEC ファシリティは端末をアイドル状態に戻し、着信セッションを切断します。EXEC タイムアウト機能をディセーブルにして EXEC セッションがタイムアウトしないようにするには、次のコマンドを入力します。

```
exec-timeout 00
```


タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、コンソール ライン テンプレートのタイムアウト時間を 60 分、0 秒に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# exec-timeout 60 0
```

関連コマンド

コマンド	説明
absolute-timeout , (3 ページ)	回線切断の絶対的なタイムアウトを設定します。
session-timeout , (56 ページ)	仮想端末接続でのユーザ入力のアイドル待機タイムアウト時間を設定します。

flowcontrol hardware

物理端末接続のハードウェアフロー制御を設定するには、回線コンソールコンフィギュレーションモードで **flowcontrol hardware** コマンドを使用します。コンフィギュレーションファイルから属性を削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

flowcontrol hardware {in| out| none}

no flowcontrol hardware {in| out| none}

構文の説明

in	着信フロー制御を指定します。
out	発信フロー制御を指定します。
none	フロー制御なしを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

物理回線接続のフロー制御属性を設定するには、**flowcontrol hardware** コマンドを使用します。物理回線接続は、コンソール ライン テンプレートまたは AUX ライン テンプレートを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、ハードウェア フロー制御をコンソール ライン テンプレートの着信に制限する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# flowcontrol hardware in
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users , (66 ページ)	ネットワーキングデバイスのアクティブ回線に関する情報を表示します。

length

画面に一度に表示する行数を設定するには、ライン テンプレート コンフィギュレーション モードで **length** コマンドを使用します。 コンフィギュレーション ファイルから **length** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

length *lines*

no length *lines*

構文の説明

<i>lines</i>	画面に表示する行数。 範囲は 0 ～ 512 です。 0 は休止なしを指定します。 デフォルトは 24 です。
--------------	---

コマンド デフォルト

lines : 24

コマンド モード

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

指定した回線テンプレートのデフォルトの長さの設定を変更するには、**length** コマンドを使用します。 **length** の設定により、複数画面出力の表示の間に画面が休止するタイミングが決まります。 *lines* 引数に値 0 を指定すると、ルータは出力の画面間で休止しません。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートの長さを 33 行に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# length 33
```

関連コマンド

コマンド	説明
terminal length, (72 ページ)	現在の端末セッションの表示端末の長さを設定します。

line

コンソール、デフォルト、またはユーザ定義のラインテンプレートを指定して、テンプレートコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **line** コマンドを使用します。

line {console| default| template *template-name*}

構文の説明

console	コンソール回線のライン テンプレートを指定します。
default	デフォルト ライン テンプレートを指定します。
template <i>template-name</i>	VTY プールに適用するユーザ定義のライン テンプレートを指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ライン テンプレートの種類を指定してラインテンプレート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line** コマンドを使用します。ラインテンプレートは、物理端末回線接続（コンソールポートおよび AUX ポート）および VTY 接続を設定して管理するために使用する属性のコレクションです。Cisco IOS XR ソフトウェアでは、次のテンプレートを使用できます。

- デフォルト ライン テンプレート：物理および仮想端末回線に適用されます。
- コンソール ライン テンプレート：コンソール回線に適用されます。
- ユーザ定義ライン テンプレート：仮想端末回線の範囲に適用できます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、ライン テンプレート コンフィギュレーション モードを開始してデフォルト ライン テンプレートの設定を変更できるようにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
vty-pool, (84 ページ)	VTY プールを作成または変更します。

parity

物理端末接続にパリティ ビットを設定するには、回線コンソール コンフィギュレーション モードで **parity** コマンドを使用します。パリティなしを指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

parity {even| none| odd}

no parity {even| none| odd}

構文の説明

even	偶数パリティを指定します。
none	パリティなしを指定します。
odd	奇数パリティを指定します。

コマンド デフォルト

パリティなしに設定されます。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

端末やモデムなどのデバイスによって提供される通信プロトコルでは、多くの場合、特定のパリティ ビットの設定が必要です。

物理端末接続のパリティ属性を設定するには、**parity** コマンドを使用します。物理端末接続は、コンソール ライン テンプレートまたは AUX ライン テンプレートを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、コンソール ライン テンプレートの回線パリティを偶数に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# parity even
```

関連コマンド

コマンド	説明
show users , (66 ページ)	ネットワーキングデバイスのアクティブ回線に関する情報を表示します。

resume

別のアクティブな Secure Shell (SSH; セキュア シェル) または Telnet セッションに切り替えるには、EXEC モードで **resume** コマンドを使用します。

resume [*connection*]

構文の説明

<i>connection</i>	(任意) アクティブなネットワーク接続の名前または番号。デフォルトは最後の接続です。番号の範囲は、1 ～ 20 です。
-------------------	---

コマンド デフォルト

最後の接続。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

別のルータまたはサーバに対して、SSH および Telnet セッションを確立できます。

ネットワーク セッションが確立されていて切断されていないときは、示されているような特殊な文字シーケンスを入力することで、ルータ コンソール セッションを再開できます。ルータ コンソールに戻った後、接続の番号または名前を指定することで、ネットワーク接続を再開できます。

複数のセッションを同時に開き、開いたセッションの間を行き来できます。開くことのできるセッションの数は、**session-limit** コマンドを使用して定義します。

次に示すように、あるセッションをエスケープし、前に開いたセッションを再開することで、セッションを切り替えることができます。

- 1 エスケープ シーケンス (Ctrl+Shift+6, x [^X]) を入力することで現在のセッションからエスケープし、EXEC プロンプトに戻ります。
- 2 開いているセッションを一覧表示するには、**show sessions** コマンドを使用します。現在の端末回線に関連付けられ、開いているセッションのすべてが表示されます。

- 3 接続するには、**resume** コマンドとセッション番号を入力します。
 また、**Return** キーを押すことで前のセッションを再開することもできます。
 ^^X およびコマンドは、サポートされるすべての接続プロトコルで使用できます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、ある接続からエスケープして別の接続を再開する例を示します。 接続名を省略し、接続番号を入力するだけでその接続を再開できます。

```
host1% ^^X
RP/0/RSP0/CPU0:router# resume 1

blg_router#
```

関連コマンド

コマンド	説明
session-limit , (54 ページ)	現在の端末からの発信端末セッションの最大数を設定します。
show sessions , (62 ページ)	SSH および Telnet 接続に関する情報を表示します。
telnet	Telnet をサポートするホストにログインします。

send

1 つまたはすべての端末回線にメッセージを送信するには、EXEC モードで **send** コマンドを使用します。

send {***| *line-number*| **aux 0**| **console 0**| *vtty number*}

構文の説明

<i>*</i>	すべての TTY 回線にメッセージを送信します。
<i>line-number</i>	メッセージを送信する回線番号。0 ～ 101 までの数字。
aux 0	AUX 回線にメッセージを送信します。
console 0	コンソール回線にメッセージを送信します。
<i>vtty number</i>	仮想端末回線（VTY）にメッセージを送信します。範囲は 0 ～ 99 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

システムによりメッセージを入力するプロンプトが表示されます。メッセージの長さは最大 500 文字です。メッセージを終了するには **Ctrl+Z** を入力します。このコマンドを中断するには **Ctrl+C** を入力します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、すべての回線にメッセージを送信する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# send *

Enter message, end with CTRL/Z; abort with CTRL/C:
The system will be shut down in 10 minutes for repairs.^Z
Send message? [confirm]
RP/0/RSP0/CPU0:router#

***
***
*** Message from tty to all terminals:
***
The system will be shut down in 10 minutes for repairs.
```

session-limit

現在の端末からの発信ターミナルセッションの最大数を設定するには、該当するラインコンフィギュレーション モードで **session-limit** コマンドを使用します。 指定したセッション制限を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-limit *connections*

no session-limit

構文の説明

connections 発信接続の最大数。 範囲は 0 ～ 20 です。

コマンド デフォルト

connections : 6

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション
回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートのアクティブな発信接続の数を 8 に制限する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# session-limit 8
```

session-timeout

現在の端末からのすべての発信接続のタイムアウト時間を設定するには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **session-timeout** コマンドを使用します。コンフィギュレーション ファイルから **session-timeout** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

session-timeout *minutes* [*output*]

no session-timeout *minutes*

構文の説明

<i>minutes</i>	分単位のタイムアウト時間。範囲は 0 ～ 35791 です。デフォルトは 10 です。
output	(任意) ルータから非同期回線にトラフィックを送信するとき (指定した時間内で) 接続を保持することを指定します。

コマンド デフォルト

minutes : 10

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
 ライン デフォルト コンフィギュレーション
 回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

Cisco IOS XR ソフトウェアがリモート デバイスへの接続を閉じて端末をアイドル状態に戻る前にトラフィックを待機する時間を設定するには、**session-timeout** コマンドを使用します。**output** キーワードを指定しない場合、セッション タイムアウトの時間は検出されたユーザからの入力だけにに基づきます。キーワードを指定すると、時間は入力および出力トラフィックに基づきます。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートのセッション タイムアウト値を 120 分（2 時間）に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# session-timeout 120
```

show line

端末回線のパラメータを表示するには、EXEC モードで **show line** コマンドを使用します。

show line [**aux location** *node-id*] **console location** *node-id* **vty** *number*]

構文の説明

aux	(任意) AUX 回線の端末回線パラメータを表示します。
location <i>node-id</i>	(任意) AUX ポートまたはコンソール ポートが存在するルートプロセッサ (RP) の場所を指定します。 <i>node-id</i> 引数は、ラック/スロット/モジュール の形式で入力します。
console	(任意) コンソール回線の端末回線パラメータを表示します。
vty <i>number</i>	(任意) 仮想端末回線 (VTY) 番号を指定します。 範囲は 0 ～ 99 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read

例

次に、**show line** コマンドの出力例を示します。アスタリスク (*) は現在の端末セッションを示します。

RP/0/RSP0/CPU0:router# **show line**

Tty	Speed	Modem	Uses	Noise	Overruns	Acc I/O
aux0_0_0	9600	-	-	-	0/0	-/-
* con0_0_0	9600	-	-	-	0/0	-/-
vty0	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty1	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty2	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty3	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty4	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty100	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty101	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty102	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty103	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty104	0/0	-	-	-	0/0	-/-
vty105	0/0	-	-	-	0/0	-/-

表 5: **show line** のフィールドの説明

フィールド	説明
Tty	使用可能な TTY および VTY。
Speed	着信シリアル接続が使用しているボー レート（単位は bps）。
Modem	実装されていません。
Uses	実装されていません。
Noise	実装されていません。
Overruns	ハードウェア Universal Asynchronous Receiver/Transmitter (UART; 汎用非同期送受信器) オーバーランまたはソフトウェアバッファ オーバーフロー。いずれも、システムが再起動されてから指定した回線で発生したオーバーランまたはオーバーフローの回数と定義されます。ハードウェア オーバーランはバッファ オーバーランであり、UART チップの処理速度より速くソフトウェアからビットを受信した場合です。ソフトウェア オーバーフローは、ソフトウェアの処理速度より速くハードウェアからビットを受信すると発生します。
Acc I/O	実装されていません。

次に、コンソール回線を指定した場合の **show line** コマンドの出力例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show line console location 0/rp0/cpu0
```

```

Tty          Speed      Overruns      Acc I/O
con0/RP0/CPU0 9600         0/0           -/-

Line con0_RP0_CPU0, Location "0/RP0/CPU0", Type "Console"
Length: 24 lines, Width: 80 columns
Baud rate (TX/RX) is 9600, 1 parity, 2 stopbits, 8 databits
Template: console
Capabilities: Timestamp Disabled
Allowed transports are none.
```

表 6: **show line location** のフィールドの説明

フィールド	説明
Tty	TTY の固有 ID。TTY のタイプが含まれ、物理 TTY の場合は TTY の物理的な場所を示します。
Speed	着信シリアル接続が使用しているボー レート（単位は bps）。
Overruns	ハードウェア UART オーバーランまたはソフトウェア バッファ オーバーフロー。いずれも、システムが再起動されてから指定した回線で発生したオーバーランまたはオーバーフローの回数と定義されます。ハードウェア オーバーランはバッファ オーバーランであり、UART チップの処理速度より速くソフトウェアからビットを受信した場合です。ソフトウェア オーバーフローは、ソフトウェアの処理速度より速くハードウェアからビットを受信すると発生します。
Acc I/O	実装されていません。
Line	TTY の固有 ID。このフィールドには、TTY のタイプと物理 TTY の物理的な場所が表示されます。
Location	回線のロケーション。
Type	回線タイプ。
Length	端末または画面表示の長さ。単位は行数。

フィールド	説明
Width	端末または画面表示の幅。単位は列数。
Baud rate (TX/RX)	回線の送信レート/受信レート。単位は bps。
parity	物理端末接続に使用されるパリティ ビットの値。
stopbits	物理端末接続に使用されるストップ ビットの値。
databits	物理端末接続に使用されるデータ ビットの値。
Template	特定の接続の基になっているラインテンプレート。
Config	TTY に適用されている設定。このフィールドには、この TTY からルータへのアクセスに使用できる許可された着信トランスポートが示されます。
Allowed transports are	この TTY がルータにアクセスするために使用できる着信トランスポート プロトコル。

show sessions

ターミナルセッションから起動された一時停止中のセキュア シェル (SSH) および Telnet 接続に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show sessions** コマンドを使用します。

show sessions

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ホスト名、ホストにアクセスするためにルータが使用しているリモート接続サービス、アイドル時間、接続名を表示するには、**show sessions** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read

例

次に、**show sessions** コマンドの出力例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show sessions
```

Conn	Host	Address	Service	Idle	Conn	Name
*	1	10.26.25.40	telnet	15	10.26.25.40	

アスタリスク (*) は現在の端末セッションを示します。

表 7: *show sessions* のフィールドの説明

フィールド	説明
Conn	一時停止中のセッションの再開および切断に使用する接続の ID。アスタリスク (*) は現在の端末セッションを示します。
Host	ルータが接続されているリモート ホスト。このフィールドには、リモート ホストの IP アドレスまたはホスト名が表示されます。リモート ホストの IP アドレスがホスト名にマッピングされていて (つまり、ドメイン ネーム システム (DNS) サービスがイネーブルになっている)、セッションがホスト名で開始されている場合、このフィールドの出力には、ホストの IP アドレスではなくホスト名が表示されます。
Address	リモート ホストの IP アドレス。
Service	使用されているリモート接続サービス。
Idle	その回線でデータが最後に送信されてからの時間 (秒単位)。
Conn Name	Cisco IOS XR ソフトウェアの「Host」フィールドに相当します。

関連コマンド

コマンド	説明
disconnect , (34 ページ)	ネットワーク接続を切断します。
resume , (50 ページ)	別のアクティブな Telnet セッションに切り替えます。

show terminal

現在の端末回線の端末コンフィギュレーションの属性設定についての情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

show terminal

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read

例

次に、**show terminal** コマンドの出力例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show terminal

Line vty0, Location "10.56.249.67", Type "VTY"
Length: 24 lines, Width: 80 columns
Baud rate (TX/RX) is 0, 0 parity, 0 stopbits, 0 databits
Template: default
Capabilities: Timestamp Disabled
Allowed transports are telnet ssh.
```


表 8 : *show terminal* のフィールドの説明

フィールド	説明
Line	現在使用されている回線。
Location	ルータにアクセスする端末の場所。
Type	回線のタイプ。
Length	端末または画面表示の長さ。単位は行数。
Width	端末または画面表示の幅。単位は列数。
Baud rate (TX/RX)	回線の送信または受信レート。単位は bps。
parity	物理端末接続に使用されるパリティ ビットの値。
stopbits	物理端末接続に使用されるストップ ビットの値。
databits	物理端末接続に使用されるデータ ビットの値。
Template	特定の接続の基になっているラインテンプレート。
Config	TTY に適用されている設定。このフィールドには、この TTY からルータへのアクセスに使用できる許可された着信トランスポートが示されます。
Allowed transports are	この TTY がルータにアクセスするために使用できる着信トランスポート プロトコル。

show users

ルータのアクティブな回線についての情報を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

show users

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

回線番号、接続名、アイドル時間、ホスト、端末の場所を表示するには、**show users** コマンドを使用します。アスタリスク (*) は現在の端末セッションを示します。



(注)

すべてのユーザ グループおよび現在ログインしているユーザに関連付けられているタスク ID を表示するには、EXEC モードで **show user** コマンドを使用します。『Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router System Security Command Reference』の「Authentication, Authorization, and Accounting Commands on Cisco IOS XR Software」を参照してください。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read

例

次に、アクティブな VTY ターミナルセッションの出力例を示します。

RP/0/RSP0/CPU0:router# **show users**

Line	User	Service	Conns	Idle	Location
con0_RP0_CPU0	cisco	hardware	0	18:33:48	
vtty0	cisco	telnet	0	00:30:36	10.33.54.132
* vty1	cisco	telnet	0	00:00:00	10.33.54.132

表 9 : **show users** コマンドの出力フィールドの説明

フィールド	説明
Line	現在のすべての接続。アスタリスク (*) はアクティブな接続を示します。
User	回線にログインしているユーザのユーザ名。
Service	使用されている物理またはリモート ログインサービス。
Conns	発信接続の数。
Idle	最後のキーストロークからの時間（時間：分：秒）。
Location	リモートログインホストの IP アドレス。ローカル（物理）端末接続の場合、このフィールドはブランクです。

関連コマンド

コマンド	説明
show line , (58 ページ)	端末回線のパラメータを表示します。
show user	すべてのユーザグループおよび現在ログインしているユーザに関連付けられているタスク ID を表示します。

stopbits

物理端末接続用に使用するストップビットを設定するには、ライン コンソール コンフィギュレーション モードで **stopbits** コマンドを使用します。 デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を入力します。

stopbits {1| 2}

no stopbits

構文の説明

1	1 ストップ ビットを指定します。
2	2 ストップ ビットを指定します。 これはデフォルトです。

コマンド デフォルト

2 ストップ ビット。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

物理端末接続のデータ ビット属性を設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。 物理端末接続は、コンソール端末テンプレートまたは AUX 端末テンプレートを使用します。

端末やモデムなどのデバイスによって提供される通信プロトコルでは、多くの場合、特定のストップ ビットの設定が必要です。



(注)

ルータおよびターミナル サーバに設定されているストップ ビットの数と同じでなければなりません。 ルータのデフォルトのストップ ビットのデフォルトの数は 2 ストップ ビットです。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、コンソール ライン テンプレートのデフォルトを 2 ストップ ビットから 1 に変更する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# stopbits 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
databits , (32 ページ)	データ ビットの数を設定します。

terminal exec

現在のターミナルセッションの属性を指定するには、EXEC モードで **terminal exec** コマンドを使用します。

terminal exec prompt {no-timestamp| timestamp}

構文の説明

prompt	プロンプト属性を指定します。
no-timestamp	各コマンドの前のタイムスタンプ印刷をディセーブルにします。
timestamp	各コマンドの前のタイムスタンプ印刷をイネーブルにします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

各コマンドが入力された後でタイムスタンプを表示するには、**prompt** および **timestamp** キーワードを指定して **terminal exec** コマンドを使用します。タイムスタンプの表示をディセーブルにするには、**prompt** および **no-timestamp** キーワードを指定して **terminal exec** コマンドを使用します。



(注)

terminal コマンドは、現在のターミナルセッションに限りアクティブです。すべてのセッションに設定を適用するには、**line** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read

例

次に、タイムスタンププロンプトをイネーブルにする例を示します。イネーブルにすると、各コマンドの後に日時が表示されます。この例では、**show version** コマンドを入力し、日時が表示されています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# terminal exec prompt timestamp
RP/0/RSP0/CPU0:router# show version

Thu Jan 14 06:39:50.926 PST

Cisco IOS XR Software, Version 3.9.1.15I[DT_IMAGE]
Copyright (c) 2010 by Cisco Systems, Inc.

ROM: System Bootstrap, Version 1.2(20090903:202931) [ASR9K ROMMON],

router uptime is 6 days, 14 hours, 47 minutes
System image file is "bootflash:disk0/asr9k-os-mbi-3.9.1.15I/mbiasr9k-rp.vm"

cisco ASR9K Series (MPC8641D) processor with 4194304K bytes of memory.
MPC8641D processor at 1333MHz, Revision 2.2

2 Management Ethernet
40 GigabitEthernet
12 TenGigE
219k bytes of non-volatile configuration memory.
975M bytes of compact flash card.
33994M bytes of hard disk.
1605616k bytes of disk0: (Sector size 512 bytes).
1605616k bytes of disk1: (Sector size 512 bytes).

Configuration register on node 0/RSP0/CPU0 is 0x102
Boot device on node 0/RSP0/CPU0 is disk0:
--More--
```

次に、タイムスタンププロンプトをディセーブルにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# terminal exec prompt no-timestamp
```

関連コマンド

コマンド	説明
line , (46 ページ)	コンソール、デフォルト、またはユーザ定義の回線テンプレートを指定し、ラインテンプレートコンフィギュレーションモードを開始します。
show terminal , (64 ページ)	現在の端末回線の端末コンフィギュレーションの設定を表示します。

terminal length

現在のターミナルセッションの画面で一度に表示する行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

terminal length *lines*

構文の説明

lines 画面に表示する行数。 範囲は 0 ～ 512 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

現在のターミナルセッションの **terminal length** 値を設定し、実行コンフィギュレーションに保存しない場合は、**terminal length** コマンドを使用します。 ターミナルセッションを終了すると、**terminal length** 値が、**length** コマンドで設定した値に戻ります。

lines 引数に値 0 を指定すると、ルータは出力の画面間で休止しません。



(注)

terminal コマンドは、現在のターミナルセッションに限りアクティブです。 すべてのセッションに設定を適用するには、**line** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例 次に、現在のターミナル セッションの長さを 120 行に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# terminal length 120
```

関連コマンド

コマンド	説明
length , (44 ページ)	表示端末の長さを設定します。

terminal width

現在のターミナルセッションの表示端末の幅を設定するには、EXEC モードで **terminal width** コマンドを使用します。

terminal width characters

構文の説明

characters

画面に表示する文字数。範囲は 0 ～ 512 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

現在のターミナルセッションのみの **terminal width** 値を設定し、実行コンフィギュレーションに保存しない場合は、**terminal width** コマンドを使用します。ターミナルセッションを終了すると、**terminal width** 値が、**width** (表示) コマンドで設定した値に戻ります。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read, write

例

次に、現在の端末セッションの端末の幅を 120 文字に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# terminal width 120
```

関連コマンド

コマンド	説明
width (表示) , (87 ページ)	表示端末の幅を設定します。

timestamp disable

各コマンド出力の先頭でのタイムスタンプの記録をディセーブルにするには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **timestamp disable** コマンドを使用します。ディセーブルの場合にタイムスタンプの記録を再度イネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

timestamp disable

no timestamp disable

構文の説明

このコマンドには、キーワードと引数はありません。

コマンド デフォルト

各コマンド出力の先頭でのタイムスタンプの記録はイネーブルです。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション

ライン デフォルト コンフィギュレーション

回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース

変更箇所

リリース 3.7.2

このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

デフォルトでは、タイムスタンプは、どのコマンドの出力の上部にも表示されます。タイムスタンプでは、コマンドが発行された時刻を記録します。タイムスタンプがコマンド出力の上部に表示されないようにこの設定をディセーブルにするには、**snmp-server view** コマンドを使用できます。この設定は、現在のラインテンプレートが適用される端末回線のすべての出力に適用されません。

タスク ID

タスク ID

操作

tty-access

read, write

例

次に、コンソールラインテンプレートのタイムスタンプの記録をディセーブルにする例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line console
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# timestamp disable
```

transport input

ルータへのアクセスに使用できるトランスポートプロトコルを定義するには、該当するラインコンフィギュレーションモードで **transport input** コマンドを使用します。プロトコルを変更または削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

transport input {all| none| ssh| telnet}

no transport input {all| none| ssh| telnet}

構文の説明

all	セキュア シェル (SSH) および Telnet プロトコルを指定します。
none	ルータが着信の SSH および Telnet トランスポート プロトコル接続を拒否することを指定します。
ssh	SSH トランスポート プロトコルを指定します。
telnet	Telnet トランスポート プロトコルを指定します。

コマンド デフォルト

回線ではすべてのプロトコルが許可されます。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション
回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

受け付けられるには、非同期ポート（端末回線）に対する着信ネットワーク接続は、**transport input** コマンドで指定されているトランスポート プロトコルを使用する必要があります。このコマンドは、受け付けるトランスポートプロトコルを制限し、異なるタイプのユーザによって使用

されるプロトコルを含めたり除外したりする場合、または回線を安全な接続（SSH 接続）に制限したりする場合に便利です。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートのトランスポート入力設定を SSH 接続に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# transport input ssh
```

関連コマンド

コマンド	説明
transport output , (80 ページ)	回線からの発信接続に使用できるプロトコルを決定します。
transport preferred , (82 ページ)	接続を開始するときにユーザがトランスポートプロトコルを指定しない場合にCisco IOS XR ソフトウェアが使用するプロトコルを指定します。

transport output

回線からの発信接続に使用できるトランスポートプロトコルを指定するには、該当するラインコンフィギュレーションモードで **transport output** コマンドを使用します。プロトコルを変更または削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

transport output {all| none| ssh| telnet}

no transport output {all| none| ssh| telnet}

構文の説明

all	セキュア シェル (SSH) および Telnet トランスポート プロトコルを指定します。
none	ルータが発信の SSH および Telnet トランスポート プロトコル接続を拒否することを指定します。
ssh	SSH トランスポート プロトコルを指定します。
telnet	Telnet トランスポート プロトコルを指定します。

コマンド デフォルト

回線ではすべてのプロトコルが許可されます。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション
回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

transport output コマンドで行うすべての設定は、**transport preferred** コマンドでの設定を上書きします。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、すべての発信トランスポート プロトコル接続を禁止するようにデフォルト ライン テンプレートを設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# transport output none
```

関連コマンド

コマンド	説明
transport input , (78 ページ)	ルータの特定の回線への接続に使用されるプロトコルを定義します。
transport preferred , (82 ページ)	接続を開始するときにユーザがトランスポート プロトコルを指定しない場合にCisco IOS XR ソフトウェアが使用するプロトコルを指定します。

transport preferred

ネットワーク接続を開始するために使用するデフォルトの発信トランスポートプロトコルを指定するには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **transport preferred** コマンドを使用します。プロトコルを変更または削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

transport preferred {none|ssh|telnet}

no transport preferred {none|ssh|telnet}

構文の説明

none	機能を無効にします。
ssh	セキュア シェル (SSH) トランスポート プロトコルを指定します。
telnet	Telnet トランスポート プロトコルを指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの発信プロトコルとして設定されているトランスポート プロトコルはありません。

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
ライン デフォルト コンフィギュレーション
回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

発信接続を開始するときに使用するデフォルトのトランスポートプロトコルを提供するには、**transport preferred** コマンドを使用します。**transport preferred** コマンドで指定される推奨の発信トランスポートプロトコルでは、トランスポートプロトコルを明示的に指定しないで発信接続を開始できます。

Cisco IOS XR ソフトウェア は、認識できないコマンドはすべてホスト名であるものと想定し、接続を試みます。プロトコルが **none** に設定されている場合、システムは EXEC プロンプトで入力された認識できないコマンドを無視し、接続を試みません。

デフォルト設定は、**none** キーワードを指定して **transport preferred** コマンドを使用した場合と同じで、誤った接続の試行を防止します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートの推奨トランスポート設定を SSH に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# transport preferred ssh
```

関連コマンド

コマンド	説明
transport input, (78 ページ)	ルータの特定の回線への接続に使用されるプロトコルを定義します。
transport output, (80 ページ)	回線からの発信接続に使用できるプロトコルを決定します。

vty-pool

仮想端末回線（VTY）プールを作成または変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **vty-pool** コマンドを使用します。 VTY プールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

vty-pool {**default**| **eam**| *pool-name*} *first-vty last-vty* [**line-template** {**default**| *template-name*}]

no vty-pool {**default**| **eam**| *pool-name*} *first-vty last-vty* [**line-template** {**default**| *template-name*}]

構文の説明

default	デフォルトの VTY プールを指定します。
eam	Embedded Event Manager の VTY プールを指定します。
<i>pool-name</i>	ユーザ定義の VTY プール。
<i>first-vty</i>	プール内の最初の VTY 回線。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルトの VTY プールの場合、最初の VTY 回線には 0 を指定する必要があります。 ユーザ定義の VTY プールの場合は、5 ～ 99 の範囲です。 Embedded Event Manager の VTY プールの場合、最初の VTY 回線には 100 を指定する必要があります。
<i>last-vty</i>	プール内の最後の VTY 回線。 <ul style="list-style-type: none"> デフォルトの VTY プールは、少なくとも 5 つの VTY を含む必要があります。範囲は 4 ～ 99 です。 ユーザ定義の VTY プールの場合は、5 ～ 99 の範囲です。 Embedded Event Manager の VTY プールは、少なくとも 6 個の vty を含める必要があります。範囲は 105 ～ 199 です。
line-template	（任意）VTY プール内の仮想端末の設定で使用する端末テンプレートを指定します。
default	VTY プールがデフォルト テンプレートを参照する必要があることを指定します。
<i>template-name</i>	VTY プール内の VTY に適用するユーザ定義のテンプレート。

コマンド デフォルト

default vty-pool : デフォルト ライン テンプレートを参照する 5 個の VTY（VTY 0 ～ 4）。

cem vty pool : デフォルト ライン テンプレートを参照する 6 個の VTY (VTY 100 ~ 105)。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

VTY プールを作成または変更するときは、次の使用上のガイドラインに従ってください。

- VTY プールを作成または変更する前に、グローバル コンフィギュレーション モードで **telnet server** コマンドを使用して、Telnet サーバをイネーブルにします。 詳細については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Configuration Guide*』および『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router IP Addresses and Services Command Reference*』を参照してください。
- デフォルト VTY プールの VTY の範囲は、VTY 0 から開始し、5 つ以上の VTY を含む必要があります。
- 0 ~ 99 の範囲の VTY は、デフォルトの VTY プールを参照できます。
- 5 ~ 99 の範囲の VTY は、ユーザ定義の VTY プールを参照できます。
- 100 からの範囲の VTY は、Embedded Event Manager の VTY プール用に予約されています。
- Embedded Event Manager VTY プールの VTY の範囲は、VTY 100 から開始し、6 つ以上の VTY を含む必要があります。
- 1 つの VTY がメンバになることができる VTY プールは 1 つだけです。 別のプールにすでに含まれる VTY を含めると、VTY プールの設定は失敗します。

VTY プールを設定するときにアクティブな VTY プールからアクティブな VTY を削除しようとすると、その VTY プールの設定は失敗します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例 次に、VTY 10 ～ 14 を含み、ユーザ定義のラインテンプレート test2 を参照する、ユーザ定義の VTY プール (test1) を設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# vty-pool test1 10 14 line-template test2
```

関連コマンド

コマンド	説明
line , (46 ページ)	指定された回線テンプレートの回線テンプレート コンフィギュレーション モードが開始されます。

width (表示)

表示端末の幅を設定するには、該当するライン コンフィギュレーション モードで **width** コマンドを使用します。コンフィギュレーション ファイルから **width** コマンドを削除してシステムをデフォルトの状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

width *characters*

no width *characters*

構文の説明

characters 画面に表示する文字数。範囲は 0 ～ 512 です。

コマンド デフォルト

characters : 80

コマンド モード

ライン コンソール コンフィギュレーション
 ライン デフォルト コンフィギュレーション
 回線テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更箇所
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

指定したライン テンプレートのデフォルトの幅の設定を変更するには、**width** コマンドを使用します。

タスク ID

タスク ID	操作
tty-access	read, write

例

次に、デフォルト ライン テンプレートの端末の幅を 99 文字に設定する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# line default
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-line)# width 99
```

関連コマンド

コマンド	説明
terminal width, (74 ページ)	現在の端末セッションの表示端末の幅を設定します。